

## 処理方法により相違する打継性能の比較について

玉置 一清 竹之井 勇 佐田 達典

キーワード：打継目, せん断強度, 曲げ強度

### 研究の目的

コンクリート構造物における打継目の凹凸形状はその処理方法によってさまざまとなっている。本報告は、実際の施工で標準的に用いられている打継目の多様な処理方法やその不具合が生じた場合などを

再現し、せん断強度試験および曲げ強度試験により、その性能を比較検討したものである。

### 研究の概要

表-1 に示す 8 種類の打継面の処理方法を施した二面せん断試験等を実施した。また、新コンクリート打込み前に打継面の凹凸形状を測定し、それを基に算定した平均深さなどの指標とせん断強度等との相関を検証した。

表-1 打継面の処理方法

No.	施工方法	備考
1	無処理	
2	チッピング	標準(入念に作業)
3	チッピング	程度(無処理部を残す程度)
4	遅延剤+高圧水	標準(翌日に高圧水処理)
5	遅延剤+高圧水	遅延剤が雨で洗い流されたと想定
6	遅延剤+高圧水	高圧水処理を4日後
7	遅延シート+高圧水	標準
8	形状成形シート	エアークャップ(φ10mm)
9	一体打ち	打継目なし

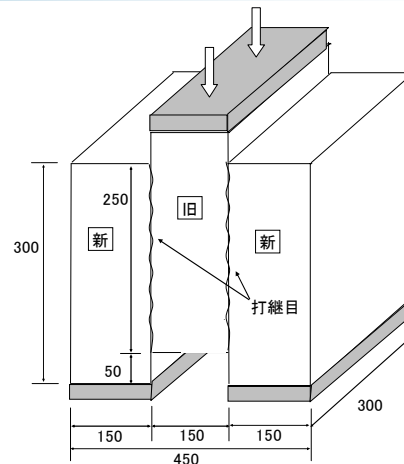


図-1 二面せん断試験

### 研究の成果

打継目のせん断強度は、標準的に施工したものに關しては一体型の 20~40%程度と処理方法によるばらつきが大きいことがわかった。凹凸形状の測定結果より算定した平均深さなどの指標と、せん断強度はおおむね比例関係にあると考えられる。ただし、

形状成形シートを用いた打継面は、凹凸形状が比較的小さいため、標準的に施工したものと同じ指標で扱うことはできないと考えられる。

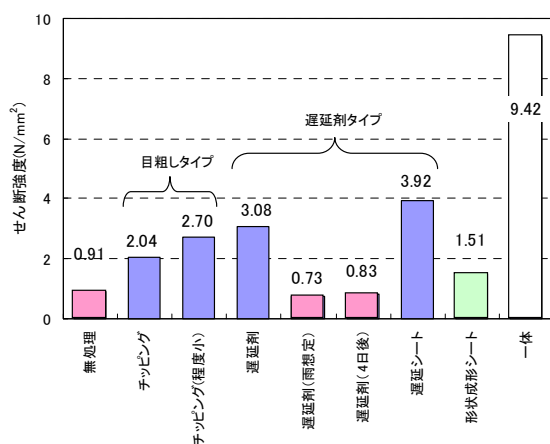


図-2 各処理方法によるせん断強度

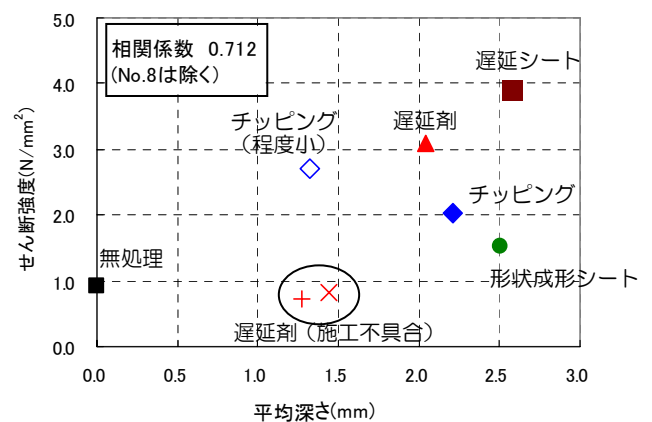


図-3 平均深さとせん断強度の関係

## Comparative Study on Treated Construction Joints

KAZUKIYO TAMAKI ISAMU TAKENOI TATSUNORI SADA

Key Words : Construction Joint, Shear Strength, Flexural Strength